

目的 農作業に携わる人々の高齢化、農業の機械化が進むにつれて、農作業事故が年々増加している。その内容は、機械の転倒、機械操作の誤り等が多いが、それと同じ位、不注意、うっかりによるものが多い。その中で、圃場内における交通事故様のものが、多発している。それは高齢化に伴い耳が遠くなったり、敏捷性に欠けたり又働いているものが家族という安心感から、注意を怠った結果というものが多い。そこで、注意をうながす安全色を農作業に導入する事を目的に作業用帽子の色を検討した。

方法 市販の野球帽14色(蛍光染料のものは除く)を刺激として採用した。各々の刺激は帽子から $5 \times 5 \text{ cm}$ に切りとり厚紙に張って作成した。実験は照度の自由に変える事の出来る実験室で行った。照度は点灯本数、サイリスターによる調光、蛍光灯を覆ったカバーのスリット巾によって調節した。今回採用した照度は1000、10、0.1lxの3段階である。又目立ちは背景の影響が非常に大きいので、背景としてN2、N5、N9のグレーを用いた。被験者は5名。実験は1人5セッション行った。

結果 1目立ち得点は刺激を選んだ順に高い得点を与え、5人の平均をとった。背景N2の場合、明るい1000lxの場合は赤が11.8で最高点となっているのに対し紺は1.9の最低点となっている。ところが0.1lxになると赤は3.3となり紺は変化しないが、空色は明るい時の8.3が暗い所では11.6に上昇している。2、圃場内は作物の生育により、葉の色や生産物の色が変わるので、それらの背景によって有効な帽子の色は異なる。3、色の目立ち空間を適用した結果、圃場という実際の場において有効であった。